

セミナータイトル：**“University Globalization: Actions From Universities”**

日時：平成 24 年 11 月 26 日（月）13 時～17 時 50 分

場所：東北大学 片平キャンパス さくらホール（青葉区片平 2-1-1）

（地図 <http://www.tagen.tohoku.ac.jp/general/access/sakura-j.html>）

主催：2012 年度通研共同プロジェクト研究会及び東北大学高等教育開発推進センター

使用言語：英語（日本語での質問可）

同タイトルにて開催した第一回目のセミナーは、現在の日本の教育制度と雇用制度をアジア、北米、ヨーロッパの諸外国と比較する事により、日本衰退の真の原因を見いだそうとしました。たとえば、前回のセミナーで特定した問題の根源の一つ（可能性の一つ）は、日本の学生は就職面接で誇れるスキルをもっていないことです。海外の大学卒業生が誇るスキルには卒業研究及びインターンシップで得られたスキルが含まれ、これらを自らの誇れるスキルとして就職面接にのぞみます。そして、多くは就職後第 1 日目から会社に貢献します。残念ながら、日本の就職面接は通常、卒業の 1 年またはそれ以上前から開始となり、卒業生が就職面接で卒業研究から得られたスキルで自分を売り込むことができません。さらに、日本のインターンシップの多くは 1～2 週間と短く、これからスキルを習得することは難しい状況です。結果として、多くの日本人新入社員は就職後第 1 日目から会社に貢献することはできず、日本の会社の多くは採用後 6 ヶ月から 1 年間社員を社内で訓練します。この“採用時に誇れるスキルが無い”状況は多くの国々（15 ヶ国以上）を調査した結果、日本だけの特徴であることが分かりました。これが、日本の会社の国際競争力を弱め、新採用の社員が社内訓練の後、短期間で辞める原因の一つにもなっています。

前回の後編となる今回のセミナーでは、前回のセミナーで明らかとなった問題点について、日本の大学（宮城大学、東北大学）、カナダ、アメリカの大学から講師を招き、各大学の取り組みについて紹介を頂き、日本-諸外国の双方の視点から現在の日本に対してプラスになる取り組みや制度について議論します。また、パネルディスカッションでは、参加者の皆様と一緒に、短期、長期的取り組みについてより具体的に議論を深めていきたいと思えます。年齢、性別、国籍、職種を問わずグローバルな視点から現在の日本を改善していきたい意欲のある方々の参加をお待ちしております。

講演 1：Prof. Daniel Eichhorst（東北大学 高等教育開発推進センター）

講演 2：関野 純子（宮城大学）

講演 3：Prof. Ben Shearon（東北大学 高等教育開発推進センター）

講演 4：橘 由加（東北大学 高等教育開発推進センター 准教授）

講演 5：Prof. Abbas Yongacoglu（カナダ オタワ大学）

講演 6：加藤 修三（東北大学 電気通信研究所 教授）

パネルディスカッション

モデレータ：加藤 修三、

パネリスト：講演者全員

参加お申し込み、お問い合わせ：東北大学電気通信研究所 加藤研究室（相澤なお実）

TEL: 022-217-5477, FAX: 022-217-5476, Email: katolab@riec.tohoku.ac.jp